

イエスはまなり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 152号

「主よ、お話し下さい」

横山 義孝



アシュラムの創始者E・スタンレー・ジョーンズ師は、インド伝道に召されてから60年余の伝道者の生涯の凡を、靈的にも、物質的にも貧しさの中にあつたインドの同胞の救いのために献げ尽くしました。米国メソジスト教団はその総会に於いて、2回に渡って彼を監督に推挙し、2度目の時には一回の投票で監督に選任となつたのですが、「…私はインドへの宣教師として召されています」とこれを堅く辞退し、ヒマラヤの中腹のサトタルの地に帰任したと云われます。

スタンレーを斯くまでインドのための救霊と宣教に徹底せしめたのは何だったのでしょか。その大きな根拠は、スタンレーの毎朝の「静聴」によって受けた神のみ言葉と導きの確さにあつたと云うことが出来ます。祈りと聖霊の確かな導きなしに、その日を歩むことが出来なかつたのです。これがアシュラムに於ける「静聴の時」として私たちに伝授されていることは誠に意義深いことを云わねばなりません。

少年サムエルが「主よ、お話し下さい。僕は聞いています」(サム上3:9)と主のみ前に静まつた聖書の証言はあまりにも有名ですが、神の民が主の前にとるべき、謙虚で、心を明渡した祈りの姿勢は、どんなに強調してもし過ぎることはありません。サムエルはそこで、自らの師であつた祭司エリも聞くことの出来なかつた極秘のみ声を聞いたのです。この祈りの故に、彼は預言者として召され、襲つてきていた国家的危機からイスラエルを救う事が出来たのです。

今日、神の民であるキリスト者、そして教会に求められているのも、この「静聴」の祈りであることを思われます。誠に今日は、国家的にも、社会的、倫理的にも、この病める時代の危機に直面しています。宣教の現代的使命に向かつて、上より聖霊の注ぎを頂いて共に前進いたしたく存じます。そのためにも原点としてキリスト者一人一人の内的、靈的更新なしにはあり得ません。「だから聖霊がこう言われるとおりで。今日、あなたがたが神の声を聞かぬなら、…心をかたくなにしてはならない」(ヘブライ3の7-8)。

(日本キリスト教団東京新生教会牧師)

霊 想

「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい」



横浜南キリスト教会牧師

矢野 伸雄

「キリストのことば」は神様が私達人間に呼びかけて下さる「ことば」、すなわち「神のことば」です。主イエスはおっしゃいました。

「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。」イエス様のみ言葉を、神様の呼びかけとして聴くことが、主の御心を知る唯一の道です。信仰は神様との出会いを通して起こります。それでは何処で、神様は私達と出会って下さるのでしょうか？聖書はヨハネ一・十八の前半を見ると「いまだかつて神を見た者はいない」とあります。神様は何処で私達と出会われるので

しょうか。それは、イエス・キリストというお方において、出会われるのです。ヨハネ一・十八の後半「父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」とありますから、イエス・キリストにおいて神様に会おう以外に、私達が神様に会おう道はありません。それでは、イエス・キリストと何処で会おうのでしょうか？現代を生きる私達は、聖書のみ言葉を通して主と会おうこととなります。一テサロニケ二・一三「この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです」とあります。み言葉ご自身が、働かれるのです。私が、教会に遣わされて六年の間に様々な試練がありました。しかし、神様は七人の方をバプテスマへと導いて、恵みを与えて下さいました。その中に高校三年の女子生徒がいました。彼女は、神様と教会員の前で次ぎのように信仰告白しました。「高校二年生になって間もない、ある朝の礼拝のメッセージに私はとても感銘を受けました。それは「神様は私の中にいる」という内容でした。なぜ、このメッセージに感銘を受けたかという時、そのメッセージを聞いた時」共にいて下さる」というのは横とか後ろについていてくれるということではなくて、私自身の中にいて、いつも、支えて下さっているのだという

ことに気付かされました。それと同じ時に、たとえようのない安心感に包まれたのです。そしてバプテスマを受けたかと思いましたが、私はこの信仰告白を聴いて感動しました。古い自分が主の十字架と共に死んで、私の内に主イエス様が住んで下さる。そして復活の主と共に新しい自分が生きるといふその喜びをもって、彼女は教会生活を続けています。感謝です。

私達二人が「アシラムの恵み」について、神学校でレポートを提出した時、島津吉成牧師からアシラム誌をお借りしたことがあります。アシラム誌の一〇八号を読んで私は共感を覚えました。それは「内住のキリスト」と題された、島津さんのお書きになったものです。神様の不恩義なお導きで池ノ上キリスト教会へと遣わされた島津さんは、山根可式牧師と出会われます。そこに、次のようにあります。山根牧師は「島津君、あなたがするんじゃないよ。あなたの内におられるイエス様がしてくださるんだ」と何度も繰り返し返して、ことある度に「内住のキリスト」の信仰を、私に叩き込んで下さった」と述べておられます。八十九歳の地上の生涯を走り抜かれ、天に凱旋された山根牧師は、この私に向かつて「矢野さん、あなたがするのではありません。あなたの内におられるイ

エス様がして下さるのですよ」と語って下さるように思いました。この私も、イエス様に全てを明け渡して、イエス様が生きて働いて下さるその「み業」を見ようと思ひ感謝しました。

各地区アシラム予告

●第42回関西アシラム

と き '08年10月12日(日) 13

日(月・祝)

と ころ 母の家ベテル(御影駅近く)

助言者 後宮俊夫師

●第43回九州アシラム

と き '08年9月22日(月) 23日

(火・祝)

と ころ 福岡黙想の家

助言者 日高範嘉師

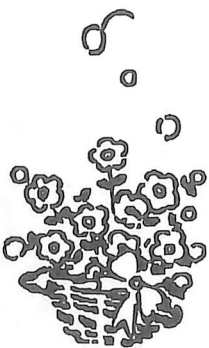
●第46回関東アシラム

と き '08年9月15日(月) 17

日(水)

と ころ 山崎製パン箱根山荘

助言者 木部安來師 佐野勇松師



2 神の国は何を意味するか。

D・P・タイタス(インド)

ヘブル語のマレークス(詩103・19、145・13等)は神の国又は支配を意味する。ギリシヤ語のバシレイアは神の国のことである。

神の国も天国も同じ意味である。マタイ福音書においては天が用いられている。それは神聖について語る場合のユダヤ的態度であったからである。それ故にマタイは神の国という言葉だけを四回用いているだけである。ルカ福音書は神の国を一般的に用いている。異邦人達が天をそのような意味には理解しなかつたからである。次の比較は両者が同一であることを確認するだろう。マタイ4の23、9の35とマルコ1の15、マタイ10の7とルカ9の2、マタイ5の3、10とルカ6の20と14の15、マタイ11の11とルカ7の28、マルコ1の15とマタイ4の17、マタイ13の11とルカ8の10等。

神の国はこの研究が示すように、大変理解し易い意味を持っている。神の国の法則は単に精神的なもののみならず、全宇宙と全社会を倫理的・政治的また経済的に支配しているものである。一言で最善の定義がロマ14の17に見出される。即ち「神の国は飲食ではなく、義と平和と聖霊における喜びである」と。我らの

主もまたマタイ6の33に於いて、神の国と正義を結合させている。神の国はまた神の意志が天においてなされるように地上でもなされるところに存在する。(我々が毎日主の祈りの中で唱えているように)。事実、神の国は神ご自身の本姿そのものである。

3 神の国は絶対的であつて相対的ではない。

三位一体の神と、神の国を除いて他に絶対的なものは何もない。教会は絶対ではない。我々の教派も絶対ではない。そのほか我々の伝道局も、教憲教規も組織も絶対ではない。総てのものは神の国との関連において存在しているのである。神の国はわれわれの協力や支援を必要としない。神の国はカリマ(因果応報)やキスマット(運命)に左右されない。いかにしばしばわれわれは神の国に関して饒舌をもてあそぶことだろう！われわれは委員会や活動によって神の国の拡大のことを語る。しかしそれは神の意志の中にわれわれの次元をもっともらしく拡大する神の国にすぎない。われわれは時には神の国の法則を破るようなことを語る。誰一人として永遠に続く御国の法則を破ることは出来ない。われわれは御国の法則に反するときには、ただわれわれ自身を破壊するだけで

ある。誰でも自分を塔の上から身投げする人が重力の法則を破るのではない。むしろ法則が彼を砕くのである。彼はただ重力の法則の真理を提示するだけである。

第11回池の上アシユラム報告

高津 吉成



第十一回池の上アシユラムが、五月二五日(日)に池の上教会で行われました。池の上アシユラムは、礼拝後に行われ、実質的には半日のアシユラムです。今年も、主題として「いのちのみ言葉を、わたしにも聞かせてください」を掲げ、主題聖句は、今年の教会の標語のみ言葉でもあるコロサイ三章十六節といたしました。

今回は、矢野伸雄師(日本バプテスト同盟横浜南教会牧師・関東アシユラム委員)を助言者にお迎えして、礼拝での説教と、午後の「福音の時」の説教と、二回の説教を取り次いでいただきました。奥様の清美師もご参加くださり、教会員とも良き交わりを持ってくださり、感謝でした。アシユラムの参加者は50名でした。

まず、午後一時からオリエンテーションと関心の時、私、高津が担当し、続いて静聴の時を、教会員の飯島延浩兄が担当して、ローマ十二章を静聴しました。静聴の後、それぞれがいただいたみ言葉を発表するのときを持ちましたが、多くの方々が積極的に発表してくださり、活発な会となりました。

その後、八つのグループに分かれて「祈りの細胞」の時を持ちました。今回は、一つの試みとして、男女別、世代別のグループ構成にしてみました。お互い共通点が多いので、心を開いて語り合い、共感をもってその人の話を聴くことが出来たようで、好評でした。

祈りの細胞のあと、再びチャペルに集い、福音の時。矢野伸雄師が礼拝に続いて、「私のうちに知られるキリスト」と題して、コロサイ三章十六節、ヨハネ十章四〜八節からみ言葉を取り次いでくださいました。先生は、ご自分の体験なども交



えながら、丁寧にみ言葉を解き明かして下さり、一同、豊かなみ言葉の恵みに与りました。私は、メッセージの中で語られた、紅海を前にしてモーセが民に語った「恐れてはいけない。しっかりと立って、きょう、あなたがたのために行われる主の救いを見なさい」(出エジプト十四章十三節)のみ言葉にとっても励まされました。

そして充滿の時。主からいただいた恵みを分かち合いましたが、ここでも多くの方々が積極的に発言してください、生き生きとしたアシラムとなり、感謝でした。最後に、一同が輪になって、「驚くばかりの恵みなりき」を賛美し、豊かな恵みを与えてくださった主に感謝しました。

第15回東京新生教会

アシラム報告

横山 義孝



08・1月26日(土)〜27(日)

当教会第15回アシラムが開催されました。「イエスは主である」(イコリント12の3)をテーマとし、ゲスト立証者として池ノ上教会から田口誠弘兄を迎えました。26日(土)午後7時より8時「開心の時」サムエル記上3章1〜14節をテキストとして、開会礼拝を兼ねたメッセージが悟られアシラムのスタートにあわつてのニードがお互いに分ちあわれた。続いて8〜9時第一回「グループの祈り」の時、17名の参加者が三つの分団に分かれ、篠原照美姉、

杉山久恵姉、岸亮夫兄がそれぞれ座長となってグループによる開心の時。お互いに霊的なニードを語り、右隣の人とそのニードのために祈る形で各グループで進められました。九時に流れ解散で自宅に帰るもの、教会に残る者があり、10時より27(日)午前7時迄は、それぞれの場で夜を徹した連鎖祈禱になりました。予め、連鎖祈禱のためには、旧新約聖書から通読箇所と祈りのテーマが提示され、15分聖書を読み15分祈ることになっている。27日(日)午前9時45分〜10時20分迄は「静寂の時」。定められたテキストを黙読し、受けた恵みの分かち合いがなされました。10時30分〜12時、公同礼拝。プログラムに従い、本日のゲスト田口誠弘兄の立証。事業の失敗から教会に導かれ信仰によって危機から救われ、現在のアシラムの祈りによって祝福の日々が与えられているという幸な話でありました。続いて横山義孝師上つて礼拝メッセージ「イエスは主である」が語られ「霊的賜物の由来」「霊的機能」「聖霊の働き」の三点が強調されました。12時〜1時は昼食「交わりの時」田口誠弘兄をゲストとしてお互いに恵みを語り合い、和気藹々の内に恵みの交わりの時が与えられました。午後1時〜2時は第二回の「グループの祈りの時」第一回では自らの過去か

ら現在までを顧みたニードが語り合われましたが、第2回に於いては、将来に向かっの伝道と愛のわざについての祈りの課題が相互に分ち合われ祈りました。2時〜3時が最後の「充滿の時」このたびのアシラム全プログラムを通じて、各自が頂いた恵み、また新たな信仰生活への決意、そのための祈りの課題を分かち合い、隣り同志二人一組になつて祈り合い、終わりに全体24名が手を繋いで輪となり「イエスは主である」と三本指の挨拶を唱和して終わりました。このたびは教会のスケジュールの都合で例年より一ヶ月早めて実施されたアシラムでしたが創立20年を迎える区切りの時として誠に恵み豊かで意義あるアシラムとなりました。

ハレルヤ



各地区アシラムの上に祝福を祈りつつ(Y)

〒181-0003 鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇〇〇〇一四五五八
理事長 大石嗣郎